

メニュー

YOMIURI ONLINE

ホーム ニュース 深読み 発言小町 医療 読売新聞から

地域

トップ 北海道発 中部発 北陸発 関西発 九州発

地域 香川 企画・連載

うどんのはなし

「さぬきの夢」〈11〉

2017年07月14日 05時00分

ツイート

G+

v

◇個性追求「香育7号」

新品種小麦の開発プロジェクトは極秘に進められた。国産小麦は品質が悪いというのが共通の認識だったからだ。吉原は「開発を試みていたこと自体に、びっくりした」と振り返る。

試食会参加者の前に示された新品種は、「香育7号」と「香育8号」の2種類。参加者の期待感は当初、高くなかったという。だが、うどんにして食べてみると予想以上のおいしさに、みな驚いていた。

もちもち感が魅力のチクゴイズミには弱点があった。讃岐うどんとしては麺が軟らかくなりすぎるという。後に「さぬきの夢2000」として登録される香育7号は、もちもち感に、適度な硬さも備えていた。風味も良い。奨励品種よりも評価は上だ。

実は試食会の前に、ごく一部のうどん店に試してもらい、多田は手応えを感じていた。「自信とまでは言わないが、期待感はあった」

そもそも、香育7号はチクゴイズミに近い系統をもとに作られた。香育8号はASWに近い、やや硬めの食感になった。会議で、吉原は「えせASWではなく、香川の小麦の個性を目指すべきだ」と訴えた。

香育7号を、新品種に推していくことは、ほぼ満場一致で決まった。

(文中敬称略)

2017年07月14日 05時00分 Copyright © The Yomiuri Shimbun

Ads by Google